

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな被害をもたらしています。このような自然災害から身を守るためには、さまざまな自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。



内水氾濫とは

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨水を流しきれなくなることがありあふれ出した雨水により、建物や土地・道路等が水に浸かってしまうことです。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。

外水氾濫とは

河川の堤防から水があふれたり、堤防が決壊して、家屋や田畑等が浸水することで、外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み、広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

特別警報

数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できていない方は、直ちに安全を確保しましょう。

警報

重大な災害のおそれがあるときに発表されます。

注意報

災害のおそれがあるときに発表されます。防災ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。

避難のながれ



「避難指示」を聞いたならみんな避難

雨の強さと降り方

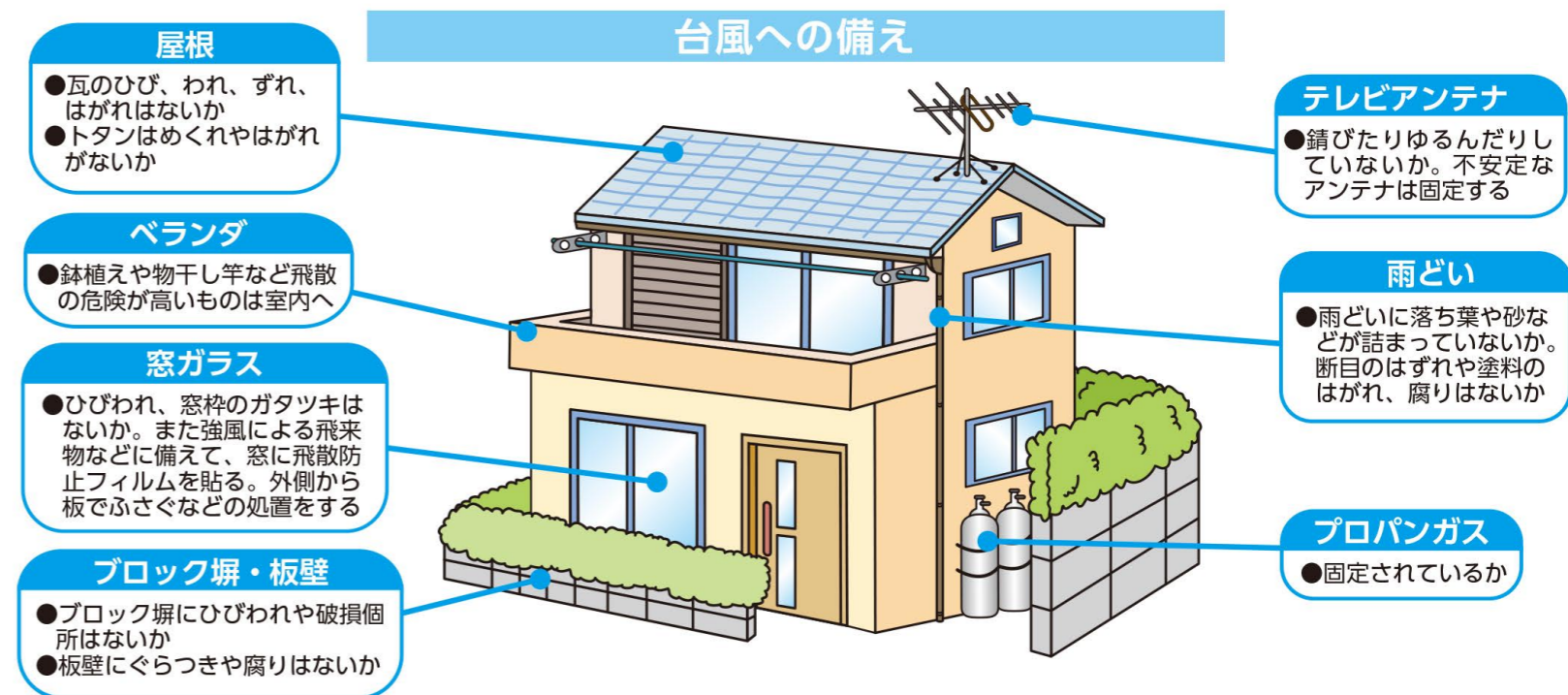
やや強い雨 ザーザーと降る	強い雨 どしゃ降り	激しい雨 バケツをひっくり返したように降る	非常に激しい雨 滝のようにゴーゴーと降り続く	猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる
地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい	道路が川のようになる。高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険
10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～

風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。樹木全体や電線が揺れ始める	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。雨戸やシャッターが揺れる	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある	屋外での行動はきわめて危険。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック塀で倒壊するものがある
平均風速 10m/s以上～15m/s未満	平均風速 15m/s以上～20m/s未満	平均風速 20m/s以上～30m/s未満	平均風速 30m/s以上

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。



台風の大きさと強さ

台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)を基に台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

■大きさの階級分け ■ 強さの階級分け ■

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上